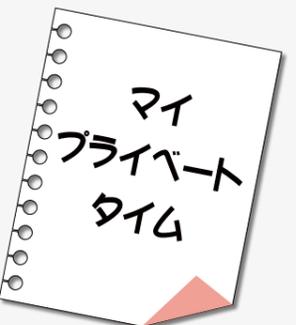


私の唯一の趣味 サッカー

いわしま 宇和島市長(愛媛県) 石橋寛久
Hirohisa Ishibashi



宇和島市紹介

わが宇和島市は、愛媛県の南西部に位置する伊達十萬石の城下町です。政宗公の嫡男、秀宗公が徳川家康の命を受けて入府し、宇和島伊達藩が始まりました。幕末のころには、四賢侯と言われた宗城公が活躍し、東北の諸藩が賊軍となる中、宇和島藩は官軍の中心にあり、日本の法制度を作りあげた児島惟謙や穂積陳重など、多くの偉人を輩出しました。市の中心に城山があり、全国で12現存する天守のうち1つが頂上に残っており、宇和島市民の誇りとなっています。



宇和島ガイヤサッカーカーニバル優勝少女チームとの記念撮影

6年前に周辺の3町と合併し、新しい宇和島市が誕生しましたが、現在の人口

は8万5000人、470km²の市となっています。

市長の権限行使

私の趣味は、ただ一つ。中学から始めたサッカーです。市長になる前ですが、日本のサッカーを強くするために、まず、少年世代の育成が重要だと考え、仲間たちと活動を始めました。その時、子どもたちを学校の土のグラウンドで教えるながら、もっと良い環境でサッカーをさせてあげたいと思っておりました。そのチャンスが、市長になって程なくやってきました。

本市は、前方を海、後方は1000m級の山が迫っている平地の少ない市で、南予の中心都市を標榜しながら、400mのトラックを持った陸上競技場がなく、もちろんサッカー場などなかったため、前市長のころから、中心部に近い100m程の山を開発して、総合運動公園を造る計画が進められていました。陸上競技場、テニスコート、子ども用のサッカーコートがとれるくらいの多目的広場、そして管理棟が主な施設で、私が市長に就任したころは、土地の造成がほぼ完了しつつあり、どのような施設を建設するか、具体的な検討を始める段階でした。このような中、完成予想図を見ていて、多目的広場は、管理棟さえどこかに移動すれば



市役所牛鬼保存会の牛鬼に乗り、宇和島牛鬼まつりに参加

ば、正規のサッカー場を造る広さがあることに気が付いたので。市長になっても、ほとんどは、常識的な判断や決定をすることが多い訳ですが、この時ばかりは、市長の権限を使わせていただきました。担当には、「多目的広場を拡張して、正規のサッカー場がとれる広さとし、いつでも雨天時でも使える四国では初となる人工芝のグラウンドとし、管理棟を隣接する一段低い所にある駐車場用地に建設し、1階を駐車場、2・3階に管理棟とスタンドや控室等を設ける」という内容を指示しました。

議会からは、「ナイターや人工芝まで造って、そんなに利用があるのか? 贅沢過ぎるのではないか?」などの疑問も出されましたが、せっかく造る施設なので悔いの残らないものにしたという考えに

賛同してもらい、7年前に完成しました。完成直後から、休日や夏休み時には朝昼晩、平日でも夕方、夜間とフル稼働の状態、担当者から、「こんなに利用されるとは想像していませんでした!」との報告を聞き、議会の中でくすぶっていた批判も消え去って、安心していきます。

この施設は、県内でも高い評価を受け、それまで松山などで行っていた試合を宇和島でも行うことができるようになり、宇和島のサッカーは各世代ともチーム力が上がり、3年前には50代チームが全国大会に出場でき、2年前には、母校の宇和島東高等学校が、50年ぶりに県優勝を成し遂げ、全国大会に出場することがで



市内を歩くことにより、新たな発見もある“市長と歩く会”

きました。私個人としても、50代のチームに身を置いているのですが、県リーグのホームの試合を地元で行えるため、運動量が落ちてしまい仲間に迷惑を掛けながらも、年に数回は試合を楽しんでいます。

市長と歩く会

市長の公務の間に、年に数回サッカーをするくらいでは、運動不足を解消することは、到底無理です。元々太りやすい体質ですので、何とか体重を維持して、毎年受診する健康診断をパスしなければ。ここで思い付いたのが、北欧の町で実施されていると聞いた、市長と歩く会を毎月実行することでした。2年前から行っていますが、市民の意見や提案を聞きながら、歩くことによって自身の健康増進を図ることのできる一石二鳥のイベントです。ただし、この会は、2年も経過すると、参加者数が伸び悩み、顔ぶれも固定されつつあるという問題点が見えてきました。しかしながら、毎月、日曜日とはいえ、昼間に堂々と歩くことができるので、気分転換と健康増進には、間違いなくプラスとなります。

今後の課題

四国には、4県ありますが、8の字ルート的高速道路を造ろうと建設を進めてお



宇和島のゆるキャラ“もーにちゃん(左)”“もーにくん(右)”

ります。7割以上が完成していますが、ようやくと言いますか、いよいよ本年3月に本市まで開通することになりました。県都松山まで高速道路で結ばれますし、瀬戸大橋や淡路島を通じて本州とも連結されることとなります。この機会に是非とも交流人口を増やしたいとの思いで、県や近隣3町と協力して、えひめ南予いやし博2012を4月から11月まで開催します。本市でもいろいろないイベントを開催する予定で、現在、最終的な詰めを行っています。その後は、一人でも多くの方に本市にお越しただけるよう、宣伝そして実行あるのみだと考えております。日ごろは、頭を使うことの方が多く仕事ですが、今年は体を使うことの方が多くなりそうです。体育会系の私としては、望むところです。皆さまも、今年は是非宇和島へお越しください。